

運営状況の特に人に関する項目についてチェックしてみましょう。保健師から見ての評価とは別に住民が主体となって同じ項目についてチェックしてみるのもよいでしょう。

Practice

チェックする項目	はい・いいえ	アクション (いいえの場合の対処)
スタッフの作業量は適切ですか？	はい・いいえ	
スタッフ同士の関係性は良好ですか？	はい・いいえ	
スタッフのトレーニングは十分足りていたか？	はい・いいえ	
参加者の活動に参加しての反応は肯定的ですか？	はい・いいえ	
障がいがある人や、特別な対応が必要な参加者への対応は出来ていますか？	はい・いいえ	
参加者と十分なコミュニケーションがとれていますか？	はい・いいえ	
事業・活動が活動場所の近隣に迷惑をかけていませんか？	はい・いいえ	
活動場所の環境は十分に安全に配慮されたものになっていますか？	はい・いいえ	
活動終了後の清掃や片付け整理は公平に分担されきちんとされていますか？	はい・いいえ	
協力者や、利用している施設等への感謝は出来ていますか？	はい・いいえ	

SCの視点

- 計画ではわからなかった様々な事象や課題に対応するには、1人だけでは困難です。より多くの人に関わるような、また場所の清掃なども参加者がするようにし、将来を見据えて自主的な活動運営を目指すようにしましょう。
- 活動場所や近隣への挨拶やお礼を定期的にするにより、活動を見守る気持ちや信頼関係が醸成されます。活動を知って頂く機会ととらえ積極的に周辺住民との関わりを増やしましょう。
- いろいろな課題を抱えた参加者や言動で他者に迷惑をかける参加者は、その人の親しい方などを通じて改めて頂くようにしましょう。
- 運営上気になる点や、ちょっとした周辺住民からの声などもその活動やSCの評価では重要です。事業や活動がどのような効果をもたらすかのヒントになることもあるので、日々の活動についてちょっとしたサインも見逃さないように記録はその日のうちにとるようにしましょう。

3-2-5 住民グループの形成と支援

1. 住民グループの形成と支援

住民グループとは、「住民の主体的な意思が尊重され、住民自身の健康づくりにつながりやすい活動を推進させる家族以外の複数で構成される仲間である⁴⁾。特に活動特性としては、形式ではなく内容が重視されて、楽しく継続的に取り組まれ、経済成果を最優先としないことである」と定義しています。事業や活動終了後、いかに住民が主体となって活動を運営していくか、そのためのグループの形成はとても重要なプロセスになります。

住民グループを支援する保健医療福祉専門職の役割

保健医療福祉専門職の役割	初期準備段階	発展段階
リーダーの発掘	教室や講座の開始段階からリーダー候補を見定めておく	民主的なリーダーシップの展開を支援する
場の提供としくみづくり	話し合いの場と活動の場を確保する。簡単な規約項目を提示する	参加者が企画の立案へ積極的参画できるように支援する
活動内容に対する支援	教室と講座内容の継続かを促す	参加者みんながそれぞれの役割があり、帰属感が深まるように支援する。

星・栗盛(2010) 地域保健スタッフのための「住民グループ」のつくり方・育て方 より

2. 住民グループへの支援の姿勢とあり方

住民グループ活動を発展させるうえで、保健師がどのようにそのグループを支援するかは重要です。住民グループに対して支援をする際の基本的な姿勢としては、以下のようなポイントが挙げられています⁵⁾。

■ 住民グループを支援する際の姿勢として

- ① パートナーシップ(支援者とグループがパートナーであるという関係)
- ② 参加(支援者とグループメンバーが協働して政策形成や決定に参加する)
- ③ 自己決定(グループが活動をとおして、メンバー自らが決定ができる)
- ④ トランスフォーメーション(グループがパワーをもち社会的な変化が生まれるようにする)

■ 具体的支援として

- ① 情報の提供(支援してくれそうな組織の情報など新たなステージに発展するための情報提供をする)
- ② 実質的な支援(会場の提供、相談への対応、補助金申請の支援、協働での評価)
- ③ 健康問題を明確にする(協働で地域の健康問題を調査したり、評価する)
- ④ グループを組織化する(健康問題に基づき、グループの組織化や、新メンバーの紹介など)
- ⑤ リーダーを育てる(リーダーの発掘と意識づけ)

Practice

住民グループの形成のイメージを記入してみましょう。

役割	責任者	サポートする人	理由
代表者は？			
代表者を支える事務局は？			
会計は？			
活動の指導者は？			
活動を支援するキーマン・組織は？			
活動を支える専門職・機関は？			

SCの視点

- ・ 住民グループの形成には、メンバーの意思を尊重しつつも保健師のかじ取りが重要です。個々のメンバー同士のつながりや、地域での役割、様々な背景を考慮した付き合い方を考えましょう。
- ・ 住民グループを支える中間支援組織との橋渡しをしたり、他グループとの交流機会を設けるなどの工夫をしましょう。
- ・ グループの活動が地域全体で認められるように、イベントへの参加要請や、活動を紹介する場の提供をしましょう。

保健師の目

《かかわり方を間違えると失敗する》

市民活動は、活動する方達の活動に対するミッション（社会的な使命感）やパッション（情熱）がなければ、長続きしません。保健師の期待どおりに活動するように仕向けたり、「主体的な活動はまだ無理」などと市民に対して上から目線で評価したりしていませんか。また、活動する方達の負担を軽減するためにと、保健師が活動の一部を担うこともお勧めできません。担当が変わり「前は～してくれたのに、今度の保健師はしてくれない」となりかねないからです。

活動する方達が、活動に対するミッションやパッションを共有しあえるようになるまでに時間がかかることがあります。活動する方達のなかで意見が割れることも珍しくなく、活動が続かなくなることもあります。なにより、保健師はその活動に関心を持ち、活動を運営する方達と地域の課題や今後必要なことについて語り合う時間をつくっていくことが大切なのです。

日々感じている思いや期待を伝えることは大事ですが、保健師は主役ではありません。時には「待つ」ことも大切です。過度な期待を持たないように気をつけましょう。しかし、決して「あきらめない」ことです。たくさんの種をまいていきましょう。そして、小さな芽でも見逃さないよう、地域や人を見る力に磨きをかけましょう。立場は違っても、地域を大事に思う気持ちは一緒であることが相手に伝われば、良い関係を築いていけると思います。

(引用文献)

- 1)川口清史, 田尾雅夫, 新川達郎(編)(2005),『よくわかるNPO・ボランティア』, ミネルヴァ書房
- 2)The Community Tool Box, Work Group for Community Health and Development at the University of Kansas, (n.d.),
1.Creating and Maintaining Partnerships, retrieved from <http://ctb.ku.edu/en/creating-and-maintaining-partnerships>
- 3)Ganz, M. (2014) Leadership, Organizing, and Action, NPO法人コミュニティ・オーガナイズング・ジャパン,
<http://communityorganizing.jp/>
- 4)星旦二, 栗盛須雅子(2010),『地域保健スタッフのための「住民グループ」のつくり方・育て方』, 医学書院。
- 5)麻原, 加藤, 宮崎(2003),グループ活動が地域に発展するための理論・技術, 看護研究 Vol.36.No.7



4章 事業・活動の評価

4-1 プロセスの評価

本マニュアルでは、事業・活動を評価する視点として、①プロセス評価、②アウトカム評価、③SC評価について紹介します。ここではまず、プロセスの評価を紹介します。プロセスの評価では、事業・活動の目的達成に向けた過程(当初の計画に従ってプログラムを実行できているか等)を評価します。

1. プロセスを評価する必要性

事業・活動は実施することが目的ではなく、特定の目的のために実施するものです。したがって、結果や成果(アウトカム)を評価することは必要不可欠となります。しかしながら、アウトカムを評価するだけでは、事業・活動のよい点(期待した成果が得られた理由)や問題点を明らかにできない場合が多くあります。プロセスを評価することで、うまく進んでいる事業・活動のポイントを整理して継続や強化につなげたり、低迷している事業・活動に対する改善策を検討することが可能になります。

2. 評価する時期

プロセスの評価は、事業・活動の実施初期から実施途中、またはプログラムや活動内容に変更があったときに行います。既に確立された事業・活動であっても、新しい地域や新しい集団に対して実施する場合には、プロセスの評価が求められます。

3. 評価計画づくりのポイント

- 評価計画(評価項目・評価方法・評価時期等)は、事業・活動の企画段階から、一緒に立てておくことがポイントです。これによって、事業・活動の目的や内容に沿った評価計画につながります。
- 評価計画をつくる際は、事業・活動の関係者(運営者・支援者等)間で、合意を形成しておくことがポイントです。これによって、日々の活動から、評価に必要な情報(例:プロセス評価における参加状況等)が収集しやすくなります。
※プロセスだけでなくアウトカムやSC評価についても同様

4. 評価方法(評価に用いるデータの収集方法)

- ✓ **量的評価**: 大勢の人へのアンケート調査や既存の統計資料を用いて、数値で評価する。客観的な情報に基づく評価となりやすい。
- ✓ **質的評価**: インタビューやワークショップ等を通じて、少人数の人の状況を評価する。主観的な情報に基づく評価となりやすい。

Practice

あなたが担当している、もしくは関わっている事業・活動を評価してみましょう！

	具体的な評価項目	評価方法 (データの収集方法)	評価結果
事業・活動の 適切性	地域のニーズ・課題に合致しているか	量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
		量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
事業・活動の 経過	活動内容は計画通りか	量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
	活動場所は計画通りか	量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
	活動頻度や回数は計画通りか	量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
		量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
運営者の反応	活動の実施・運営に支障がないか	量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
	参加者との関係は円滑か	量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
		量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
参加者の反応	活動内容に満足しているか	量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
	継続的に参加しているか	量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
		量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
保健師等の 支援者と住民 とのパートナー シップ	事業・活動を共につづけているか	量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
	信頼関係を構築できているか	量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
	支援者が住民の活動意欲を支えているか	量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善
		量的・質的	<input type="checkbox"/> 要改善

保健師の目

《既存の組織の活性化にむけて》

とても良い活動をしているなと思える活動があったら、拾い上げてみましょう。その組織の中に素敵な人はいますか。良い活動を維持し、継続していくことはとても大変なことです。これらの活動を運営している方たちには、敬意をもって接しましょう。様々なご苦労やきめ細かな動きの中から熱意や希望が伝わってくると思えます。

信頼関係を築くことができれば、現活動の課題やこれからの展望について伺ってみましょう。きっと、その活動に対するミッション（社会的な使命感）やパッション（情熱）が伝わってくると思えます。ミッションとパッションを持って活動の形をつくっていくのが市民活動だと思います。さらに良い活動へと発展させていくための新たな取り組みについて、引き出すことができるかもしれません。

4-2 アウトカムの評価

プロセスの評価に続いて、アウトカム(結果・成果)の評価について紹介します。アウトカム評価は、事業・活動の目的・目標がどの程度達成されたかを評価するものであり、事業・活動が個人・集団・地域に与えた影響や効果を測定します。評価にあたっては、短期から中・長期的に行うのが一般的です。

1. アウトカムを評価する必要性

アウトカム評価は、事業・活動の目的・目標の達成度を評価するという点において、非常に重要なものです。アウトカム評価によって事業・活動の正当性や有効性を示すことができれば、事業・活動に対する周囲(所属部署・地域住民等)の理解が得られ、支援にもつながります。また、実際に活動している運営者や参加者のモチベーション向上にも貢献するでしょう。一方で、アウトカム評価は事業・活動の修正や改善が必要か否かを判断する根拠としても重要です。つまり、より効果のある事業・活動を行うためには、アウトカム評価をしっかりと行うことが肝要なのです。

2. 評価する時期と項目

アウトカムの評価では、事業・活動の企画段階から、その影響や効果を「短期的」「中・長期的」な視点で想定しておくことが必要です(下図参照)。また、事業・活動の影響や効果を測定する指標(項目)を用いて、事前(事業・活動の実施前)の評価を行うことも必要です。

事前	短期的アウトカム	中・長期的アウトカム
<ul style="list-style-type: none"> 知識やスキル 態度 行動 健康状態 	【個人レベルの変化】 <ul style="list-style-type: none"> 知識やスキル 態度 行動 	【集団・地域レベルの変化】 <ul style="list-style-type: none"> 運営者や参加者の健康増進 地域の健康増進

図1 アウトカム評価の流れと項目

3. 評価方法(評価に用いるデータの収集方法)

- ✓ **量的評価**: 大勢の人へのアンケート調査や既存の統計資料を用いて、数値で評価する。客観的な情報に基づく評価となりやすい。
- ✓ **質的評価**: インタビューやワークショップ等を通じて、少人数の人の状況进行评估する。主観的な情報に基づく評価となりやすい。

事業・活動のアウトカム評価において、「地域への波及効果」は中・長期的アウトカムとして評価すべき重要なポイントになります。以下に、様々な視点に基づく評価項目とその指標、およびデータ収集方法の一例を紹介します。

表1 「地域への波及効果」の評価方法

評価項目	評価指標の例	収集方法
健康指標の向上	IADL(手段的日常生活動作能力) WHO-5(精神的健康度) 主観的健康感:SF-36 心理ストレス耐性:Sense of Coherence 心理:抑うつ(Geriatric Depression Scale) 自尊感情	一般地域住民アンケート
地域力(social capital)の向上	日頃の付き合い(人数) 友人・近隣との関係 地域帰属 地域環境への評価 SC	一般地域住民アンケート
要介護認定者数の抑制	要介護認定者数集計	行政情報
地域住民グループ・ボランティアの増加	地域住民グループの団体登録件数 ボランティア数 町会・自治会会員数	行政情報, ボランティアセンター・社会福祉協議会情報
特定のポピュレーションへの効果(例:子育て・高齢者世代・就労世代の社会参加の向上)	社会参加活動:就労状況 社会参加活動:ボランティア 社会参加活動:生涯学習	一般地域住民アンケート

- アンケートは様々な機会を通じて実施できます。例えば、高齢者であれば介護保険制度改定に伴うニーズ調査に、上記のような評価指標を含むことで実施できます。大学や研究機関のおこなう調査研究を活用することも効果的でしょう。
- 健康指標は事業・活動の参加者の健康増進に関する評価にも利用できます。

4-3 ソーシャルキャピタルの評価

ここでは、アウトカム評価の一部であるSC評価について、本研究班の研究結果を踏まえて紹介します。新たに立ちあげた事業・活動から、見直しが必要な事業・活動まで幅広い段階で実施することができます。ただし、1度きりの実施では意味がありません。事業・活動の前後や途中段階など、複数回にわたって実施することで、SCの活用・醸成がどのように変化したのかを評価することができます。

ソーシャルキャピタル評価項目の作成過程

首都圏の政令指定都市の自治体保健師376名を対象に、自身が職務として主催あるいは側面的に支援している地域保健事業や市民活動のうち、SCを生かして地域の健康や福祉の向上に役立っていると思われる事業(回答者1人につき3事例まで)について、次頁の10項目を用いて評価してもらいました。208名から469事例を得て、その結果を因子分析(最尤法, プロマックス回転)により分析した結果、これらの項目は①地域への波及, ②活動の発展性, ③活動の多様性, という3因子に分類することができました。また、分類された3因子に留意して「先進事例」と称される活動を検証した結果、発展性と多様性が高いことがわかりました(先進事例の一部を第6章で紹介しています)。

事業・活動のSC評価の視点

- 活動に発展性があるグループの状態: グループメンバー、活動・事業への一般参加者、および関係する団体が多い
- 活動の多様性が高いグループの状態: 活用する地域資源が多い、グループが多様な年齢層で構成されている、グループメンバーが活動以外でもつながりがある
- 活動の効果(地域への波及)が高いグループ: 活動が地域住民から評価されていると保健師または関係者が感じている